

時間割コード	G2B4F504	開講年度	2026			
授業題目	地域課題PBL D（地域魅力発信型）				担当教員	河村 隆
英文授業名	Regional Problem-Based Learning (Couse D)					宮木 慧美
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5時限	対象学生
講義室				授業形態	講義	遠隔授業科目
					備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				・信州（特に上田を中心とした地域）の自然、文化、産業、などを広く学び、それらの関係性と魅力を理解できるようになる。 ・地域活性化の課題について理解できるようになる。 ・地域課題を自ら設定し、調査・分析を通じてその構造的背景を理解できるようになる。 ・自身の専門分野の知識・技能を活用して、課題解決の方向性を企画・提案できるようになる。 ・他者との対話を通じて、多様な視点を統合しながら協働的にプロジェクトを遂行できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生					
(3)全学横断特別教育プログラム	ShinXiaコース(ShinXia)					
(4)授業の概要	「上田地域の自然、文化、産業、仕事を学び、上田地域を盛り上げるコンテンツを作る」をテーマに、地域社会が抱える具体的な課題を掘り起こし、学生が自ら課題を設定し、具体的な解決策の提案までを行うPBL（Problem-Based Learning）形式の科目である。 学生は、連携先の自治体・企業・NPO等から提供に基づき、調査・対話・試行・提案のプロセスを実践する。教室での学習に留まらず、現場での活動を通じて多様な主体と協働し、地域活性化に資する実践的な能力（課題発見力・解決力・対話力）を習得することを目的とする。 グループ活動による具体的なアウトプット（造形、映像、企画のいずれかあるいは全て）を想定している。 本講座は、【Dコース（地域魅力発信型）】として実施する。					
(5)授業のキーワード	・上田地域の自然、文化、産業、仕事 ・ものづくり、まちづくり、コトづくり ・地域の中の信州大学・繊維学部 ・地域課題の理解と掘り起こし					
(6)授業計画	第1回 ガイダンス、イントロダクション 第2回 サステナブルで始めるものづくり（講師：水出博司(日置電機)） 第3回 上田の自然を学ぶ（講師：伊藤正道（上田市役所）） 第4回 上田の観光を学ぶ（講師：池松勇樹（柳町観光協会）） 第5回 上田の文化を学ぶ（講師：荒井洋文（犀の角ノ一般社団法人シアター＆アーツうえだ代表理事）） 第6回 上田の産業を学ぶ（講師：石子仁（エイト）） 第7回 ものづくりを学ぶ 3D CAD（講師：TA） 第8回 ものづくりを学ぶ 絹・真綿（講師：繊維学部技術部） 第9回 ものづくりを学ぶ 発酵（講師：原有紀（信州イゲタ味噌）） 第10回 映像づくりを学ぶI（講師：上田ケーブルビジョン） 第11回 映像づくりを学ぶII（講師：上田ケーブルビジョン） 第12回 上田活性化のためのコンテンツ 企画・立案（協力：長野県中小企業家同友会 上田支部） 第13回 コンテンツの具体的検討 第14回 コンテンツの完成を目指して 第15回 成果発表・ポートフォリオの記入、授業アンケート 合同の成果発表会（コース終了後に、他の地域課題PBLと合同での実施）					
(7)成績評価の方法	・地域期の現状理解と課題設定：30点→個人課題（レポート）等による評価 ・最終提案と発表：30点 ・個人ポートフォリオおよび最終レポート：20点 ・協働的態度と学習姿勢：20点 合計：100点					
(8)成績評価の基準	調査・対話・試行・提案の各プロセスについて実践している場合、『その水準にある』。 教室での学習に留まらず、十分な自己学習ができている場合、『やや上にある』。 現場などでの活動を通じて関係他社と協働ができている場合、『かなり上にある』。 地域活性化について十分な実践的な能力（課題発見力・解決力・対話力）示した場合、『卓越している』。					
(9)事前事後学習の内容	【事前学習】地域課題・テーマに関する調査、参考事例の確認 【事後学習】ポートフォリオの記録、学びの振り返り、レポート作成					
(10)履修上の注意	本講座の特性上、授業への出席は当然のこと、授業時間外の調査、レポートの取りまとめなどが必要である。 他の地域課題PBLコースとの合同成果発表会を計画している。日程は授業中に示す。					

(11)質問,相談への対応	授業時に質問することが困難な場合,メールでの問い合わせに対応する. メールアドレスは授業初回に提示する.
(12)授業への出席	全ての回に出席することを基本とします. 積極的で主体的な学びを実践することを期待します.
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	授業に出席できない場合には,やむを得ない場合を除き事前に連絡すること. やむを得ない事情で出席できない場合には,できる限り授業映像の提供などにより対応する.
【教科書】	なし
【参考書】	なし